

平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年8月10日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 大田花き
 コード番号 7555 URL <http://www.otakaki.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表執行役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成24年8月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 磯村 信夫
 (氏名) 金子 和彦

TEL 03-3799-5571

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	5,989	2.9	42	△13.7	59	△9.5	36	△5.3
24年3月期第1四半期	5,820	△6.8	48	△15.0	65	△4.3	38	△4.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	7.13	—
24年3月期第1四半期	7.68	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
25年3月期第1四半期	6,330	—	4,440	—	70.1	—	872.16	
24年3月期	7,088	—	4,465	—	63.0	—	877.03	

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 4,440百万円 24年3月期 4,465百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	12.00	12.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	0.00	—	12.00	12.00

(注)直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	12,844	2.2	74	△27.5	92	△25.0	56	△21.6	11.14
通期	27,124	2.8	300	3.6	327	1.8	200	15.1	39.41

(注)直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期1Q	5,500,000 株	24年3月期	5,500,000 株
② 期末自己株式数	25年3月期1Q	408,799 株	24年3月期	408,799 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期1Q	5,091,201 株	24年3月期1Q	4,986,201 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	4
(3) 業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
4. 四半期財務諸表	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	8
第1四半期累計期間	8
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) セグメント情報等	10
(7) 重要な後発事象	10
5. 補足情報	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期累計期間における我が国経済は、ヨーロッパ、アメリカ、中国、インドなどの景気が悪化する中、復興需要と個人消費に支えられ、一定の成果を収めました。

このような経済状況の下で当社は、前年は東日本大震災の影響で少なかった結婚式が、今年は増えるとの予測から、バラ等の高級な花の品揃えを厚くする一方、母の日ギフト等に備え鉢物の品揃えを強め、4～5月は順調に推移しました。しかしその後、石油高で無加温作型が増えた菊類の大量な出回りから大きく切花相場が崩れ、6月の取扱高は前年実績を大幅に割り込み、厳しい状況のまま第1四半期を終えました。

以上の結果、当第1四半期累計期間(平成24年4月～6月)の業績は、売上高5,989,472千円(前年同四半期比2.9%増)となり、内訳をみますと、切花の取扱高5,239,846千円(前年同四半期比2.2%増)、鉢物の取扱高722,733千円(前年同四半期比7.8%増)、付帯業務収益26,893千円(前年同四半期比17.5%増)となりました。利益につきましては、営業利益42,218千円(前年同四半期比13.7%減)、経常利益59,202千円(前年同四半期比9.5%減)、四半期純利益36,290千円(前年同四半期比5.3%減)と増収減益となりました。

なお、当社は花き卸売事業単一セグメントであるため、セグメント別の記載は行なっておりません。

切花、鉢物に関する品目別の概況は次の通りです。

切花

キク類	売上金額	951,742千円(前年同期比5.1%増)
	取扱数量	21,470千本(同1.5%増)

・輪菊では主力の白菊が、生育時期の寒さが厳しかったことに加え、石油高により暖房を十分に炊けず温度を確保できなかつたため、4月から5月にかけては前年に比べ入荷量が少ない状態で推移しました。そのため、4月は高単価での取引となり、前年を大きく上回る販売金額となり、5月は相場の安定した取引となりました。6月に入ると業務需要も小売需要も振るわず厳しい販売状況となり、相場が低迷することで十分に集荷出来ない状況となりました。

・小菊は、4月から5月にかけて、前年を上回る入荷量となりました。これは例年並の水準と言えますが、震災の影響で相場が低迷した前年は、出荷を調整する産地などがあり入荷量が減少したため、それと比較すると本年は入荷量が増加しました。ただ、産地によっては生育時期の冷え込みや石油高による温度不足などが影響し、開花が遅れ出荷時期がずれたこともあり、他の産地からの集荷を強化するなど努めました。販売面でも例年並の水準でした。6月に入ると、開花が遅れていた産地からの出荷が始まったことで入荷量は前年を上回りましたが、販売サイドが必要とするタイミングを外してしまったこともあり相場は低迷しました。

・スプレー菊は、4月から5月にかけて前年を上回る入荷量となりましたが、白菊の品薄を受け、業務需要を中心に白系の引き合いが強く、価格を大きく崩すことはありませんでした。また、トータルでは前年を上回る入荷量となっていますが、国内に目を向けると、輪菊や小菊同様に冷え込みの影響などから出荷が遅れる産地もあり、国産はやや少なめとなりました。6月に入ると開花が遅れていたものがまとまって入荷するも、需要が振るわず相場は低迷し、前年を大きく下回る厳しい販売状況となりました。

洋ラン・バラ・カーネーション	売上金額	1,460,662千円 (前年同期比 0.6%増)
	取扱数量	25,534千本 (同 3.1%増)

・バラは、期間を通してみると前年並みの入荷量となりましたが、個々にみると、1月から3月の寒さが厳しかったことにより、出荷時期が遅れた産地もみられました。販売面では、震災後の自粛ムードによってブライダルやイベント等のキャンセルが響いた前年に比べると、4月から5月にかけては順調な取引となり単価も例年並で推移、前年を上回る販売金額となりました。しかし6月は業務需要の低迷などから引き合いは弱く、前年を下回る販売金額となりました。

・カーネーションは、大きな需要期である母の日において、予想を上回る入荷量となりました。これは、前年の「絆」効果で好相場となったことによる期待感が大きかったことなどによります。しかし入荷増に加え、品質にばらつきがみられたことで、価格は下落しました。品質の低下は、生育期に寒波に見舞われたこと、石油高のため適切な温度管理ができなかったことによります。輸入品においても、海外の主力産地における天候不良が品質に現れました。6月は曇天や温度不足などから入荷量が前年を下回りましたが、仏花向けの販売や業務需要なども低迷したため価格には反映されず、前年を大きく下回る販売金額となりました。

・洋ラン類では、デンファレが海外の主力産地における洪水の影響が残ることで、前年に比べるとやや少なめの入荷量となりました。そのため品薄感があり前年を上回る価格で推移しました。6月にかけて入荷量が徐々に回復すると価格も落ち着きましたが、色によっては不足感が続きました。

球根類	売上金額	823,155千円 (前年同期比 0.8%減)
	取扱数量	10,785千本 (同 0.8%減)

・ユリ類では、オリエンタルユリが、各産地とも計画より開花が遅れぎみであったため、産地の切り替わり時期に重複して出荷されるなど、やや不安定な入荷状況となりました。期間を通してみると、前年をやや下回る入荷量、販売金額となっています。テッポウユリは4月から5月にかけて入荷が少めで引き合いの強い取引となりました。6月に入ると産地も切り替わり、前年並みの入荷量となりましたが、業務需要などの動きが鈍いことから供給過多となり、厳しい相場展開となりました。

・アルストロメリアは、4月、各産地とも順調な生育状況で、潤沢な入荷となりました。そのため価格はやや下落しました。母の日までは潤沢な入荷量は続きましたが、その後、春になっても寒いことや改植時期を迎える産地もあり、入荷量がやや減少しました。6月も入荷量は少なめでありましたが、業務需要などの引き合いも弱いため、価格には反映されず低調な取引となりました。

・季節商材では、スズランの日にあわせたスズランの販売が好調でした。前年と比べても数量、販売金額とも伸びています。アガパンサスは、季節外れの台風により露地物を中心に被害を受け、入荷量が大きく減少しました。

草花類	売上金額	1,377,269千円 (前年同期比 2.8%増)
	取扱数量	28,913千本 (同 3.8%増)

・トルコギキョウは、期間を通してみると、入荷量、販売金額ともにやや前年を上回りました。4月には、開花が遅れたため出荷時期がずれてしまった西南暖地のものがまとまって入荷したこと、高冷地からの出荷も始まったことで、前年を大きく上回る入荷量となりました。そのため例年に比べると価格は伸び悩みました。5月に入ると海外の主力産地からの入荷が終了したことや、国内産地において開花が遅れたこともあり、入荷量が落ち込み品薄高となりました。6月は需要に乏しく他の品目同様、販売に苦戦しました。

・カスミソウは、寒さのため春先は開花が遅れ、入荷量が減少しました。しかし大きな需要もなかったことで価格には反映されず、前年並みの相場での取引となりました。5月から6月にかけては前年並みの入荷量となりましたが特に6月は他の品目同様に需要に乏しく、価格が下落しました。期間を通してみると、ほぼ前年並みの入荷量、販売金額となっています。

・ガーベラは、期間を通してみると前年並みの入荷量、販売金額となりました。4月は、寒さと石油高により温度管理が充分にできなかったため、前年より少なめの入荷量で始まりましたが、気温の上昇とともに安定して入荷するようになりました。母の日には、引き合いが強まりましたが、それ以降は落ち着いた取引となり、特に6月は梅雨に入り雨が多く湿度も高くなるにつれ小売需要が振るわず、厳しい販売となりました。

・季節商材では、寒さのために高冷地からの出荷が遅れたシャクヤクが、4月の下旬頃までは前年より少なめの入荷量で推移しました。販売面においては母の日向けの需要やフェアを開催する小売店の需要に支えられ、比較的安定した取引となりました。ヒマワリは冷え込みや定植が遅れた影響で、4月の下旬頃まで入荷量が少なめで推移しました。気温の上昇とともに、初夏を感じさせる商材への需要は増加しました。6月は父の日向けのアイテムとして定着しつつも、母の日同様、直前になるまで動きは鈍い傾向にあります。

枝物・葉物	売上金額	627,016千円 (前年同期比 4.3%増)
	取扱数量	13,242千本 (同 0.4%減)

・枝物は、震災後の相場が不安定なことや、寒さのため出荷が遅れたことから入荷がやや落ち込んだ前年と比較すると入荷量は増加しました。しかし1月から3月の寒さが厳しかったことの影響を受け、季節商材を中心に需要に対しては少なめの入荷が続いたことで相場を崩すことなく推移しました。

・葉物も寒さの影響を受けた国産を中心に入荷が少なめの時期もありましたが、期間を通してみると、ほぼ前年並みの入荷量となりました。販売面でも4月から5月にかけては、国産を中心に品薄傾向だったことや母の日需要によって、前年並みの販売金額となりましたが、6月に入ると他の品目と同様、需要に乏しいことで販売は低迷しました。

鉢物

鉢物	売上金額	722,733千円 (前年同期比 7.8%増)
	取扱数量	3,223千鉢 (同 1.8%減)

・洋ラン類では、ファレノを中心に震災以降、生産の減少とともに入荷量が減少していましたが、5月、6月と入荷量が増加し前年を上回りました。需要の方も、震災直後であった前年と比較すると回復の兆しが見られ、価格が上昇しました。特に5月は潤沢な入荷に加え、価格も安定して推移したため、販売金額も前年を大きく上回りました。6月に入ると一旦落ち込みましたが、下旬にかけての株主総会向けなどで再び引き合いが強まりました。期間を通してみると、入荷量はほぼ前年並みでしたが、相場がもちなおしたことで、前年を大きく上回る販売金額となりました。

・花鉢類は、日照不足や寒さのため入荷が伸び悩み、品薄傾向ではありましたが、しかし、天候不良の影響は品質にも現れ、品質の良いものが少ない状況となりました。母の日においては新規のギフト販売に取り組んだこともあり、販売金額においては前年を上回りましたが、6月以降は品質の低下がみられるなど、内容には課題を残しました。

・苗物類では、野菜苗が前年を下回る入荷量となりました。これは寒さが続いたことが影響しています。また、販売面においても、気温の低い日が5月になってもあったことで伸び悩みました。5月の後半にかけて気温が上昇すると動きが活発になりましたが、6月中旬には出荷がひと段落してしまい入荷量が減少、需要に応えきれませんでした。また前年は、節電対策として注目されたゴーヤ苗などを中心に引き合いが強くなり、価格が高騰したこともあり、販売金額で比較しても前年を下回る結果となりました。花苗類も4月は寒さから出遅れましたが、5月6月と前年を上回る入荷量が続き、期間を通してみると前年並みの入荷量、販売金額となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

当第1四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末と比較して758,732千円減少し6,330,124千円となりました。その主な内訳は現金及び預金の増加168,888千円、売掛金の減少903,245千円であります。

負債につきましては前事業年度末と比較して733,929千円減少し、1,889,769千円となりました。その主な内訳は受託販売未払金の減少710,874千円であります。

純資産につきましては前事業年度末と比較して24,803千円減少し4,440,354千円となりました。これは剰余金の配当により61,094千円減少し、四半期純利益の計上により36,290千円増加したことによるものです。

(キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末より331,111千円減少し、2,379,745千円となっております。

営業活動の結果増加した資金は、174,513千円(前年同四半期は51,860千円の減少)となりました。主な増加要因は、売上債権の減少902,736千円、税引前四半期純利益59,202千円によるものです。また、主な減少要因は、仕入債務の減少713,436千円、法人税等の支払額92,348千円によるものです。

投資活動の結果減少した資金は、493,253千円(前年同四半期は106,469千円の増加)となりました。主な要因は、定期預金の預入による支出500,000千円によるものです。

財務活動の結果減少した資金は、12,372千円(前年同四半期は9,972千円の減少)となりました。この要因は、配当金の支払額8,369千円及びリース債務の返済による支出4,002千円によるものです。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成24年5月11日に公表いたしました業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は「法人税等」に含めて表示しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、これによる、当第1四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益への影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,710,857	2,879,745
売掛金	2,047,390	1,144,144
その他	142,477	149,232
貸倒引当金	△2,305	△1,232
流動資産合計	4,898,420	4,171,890
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	150,805	149,442
工具、器具及び備品(純額)	186,472	179,379
その他(純額)	134,147	134,877
有形固定資産合計	471,424	463,698
無形固定資産		
投資その他の資産		
関係会社株式	603,735	603,735
長期前払費用	168,181	162,520
その他	764,768	760,849
貸倒引当金	△8,417	△8,408
投資損失引当金	△37,600	△37,600
投資その他の資産合計	1,490,667	1,481,096
固定資産合計	2,190,436	2,158,233
資産合計	7,088,856	6,330,124
負債の部		
流動負債		
受託販売未払金	1,728,752	1,017,877
買掛金	32,635	28,700
未払法人税等	97,627	25,411
賞与引当金	25,822	37,722
その他	210,386	246,203
流動負債合計	2,095,223	1,355,914
固定負債		
退職給付引当金	189,802	198,712
その他	338,671	335,141
固定負債合計	528,474	533,854
負債合計	2,623,698	1,889,769

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成24年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	551,500	551,500
資本剰余金	402,866	402,866
利益剰余金	3,858,274	3,833,471
自己株式	△347,482	△347,482
株主資本合計	4,465,158	4,440,354
純資産合計	4,465,158	4,440,354
負債純資産合計	7,088,856	6,330,124

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	5,820,792	5,989,472
売上原価	5,251,540	5,400,738
売上総利益	569,252	588,734
販売費及び一般管理費	520,315	546,515
営業利益	48,936	42,218
営業外収益		
受取利息	1,238	1,363
受取配当金	10,500	10,500
その他	4,707	5,245
営業外収益合計	16,445	17,109
営業外費用		
固定資産除却損	—	126
営業外費用合計	—	126
経常利益	65,381	59,202
税引前四半期純利益	65,381	59,202
法人税等	27,068	22,911
四半期純利益	38,313	36,290

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	65,381	59,202
減価償却費	34,603	40,031
賞与引当金の増減額(△は減少)	12,422	11,900
退職給付引当金の増減額(△は減少)	7,050	8,910
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△36	△1,081
受取利息及び受取配当金	△11,738	△11,863
有形固定資産除却損	—	126
有形固定資産売却損益(△は益)	—	△8
売上債権の増減額(△は増加)	△123,308	902,736
仕入債務の増減額(△は減少)	32,731	△713,436
未収入金の増減額(△は増加)	154	△82
未払費用の増減額(△は減少)	643	△5,252
未払金の増減額(△は減少)	△32,576	△23,180
未払消費税等の増減額(△は減少)	4,646	11,751
その他	△12,220	△24,578
小計	△22,245	255,173
利息及び配当金の受取額	11,836	11,688
法人税等の支払額	△41,450	△92,348
営業活動によるキャッシュ・フロー	△51,860	174,513
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△100,000	△500,000
定期預金の払戻による収入	100,000	—
有価証券の売却による収入	100,000	—
有形固定資産の取得による支出	△10,539	△9,117
有形固定資産の売却による収入	—	50
無形固定資産の取得による支出	△1,310	△4,310
貸付金の回収による収入	18,318	50,124
関係会社貸付けによる支出	—	△30,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	106,469	△493,253
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△6,581	△8,369
リース債務の返済による支出	△3,390	△4,002
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,972	△12,372
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	44,637	△331,111
現金及び現金同等物の期首残高	2,421,694	2,710,857
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,466,331	2,379,745

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

当社は、花き卸売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。

5. 補足情報

	前第1四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)		当第1四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)		前年同期比	
	数量 (千本)	金額 (千円)	数量 (千本)	金額 (千円)	数量	金額
キク類	21,153	905,135	21,470	951,742	101.50%	105.15%
洋ラン・バラ・カーネーション	24,778	1,452,083	25,534	1,460,662	103.05%	100.59%
球根類	10,872	829,541	10,785	823,155	99.20%	99.23%
草花類	27,850	1,339,646	28,913	1,377,269	103.82%	102.81%
枝物・葉物	13,299	601,236	13,242	627,016	99.57%	104.29%
鉢物	3,282	670,264	3,223	722,733	98.21%	107.83%
花き 小計	101,237	5,797,907	103,170	5,962,579	101.91%	102.84%
付帯業務料	—	22,885	—	26,893	—	117.51%
合計	101,237	5,820,792	103,170	5,989,472	101.91%	102.90%

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 上記の数量は、本数で集計しておりますが、鉢物のみ鉢数で集計しております。